

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実特別版”

『月刊現代 - 私はなぜ「タブー」に挑んだのか - 』

第8回

『週刊現代』に続き『月刊現代』もJR東日本の革マル浸透問題を告発した。本紙は筆者の了解を得て、驚くべきこの事実をシリーズで紹介することとした。

松崎が葛西氏に宣戦布告「言うておく。君と戦う。堂々と戦う。そして、必ず勝つ」

松崎が、JR東日本経営陣に恐怖を植えつけた象徴的な事件がある。JR総連は90年、旧国鉄分割民営化に最後まで反対した国労組合員1047人の再雇用問題を巡って、JR各社に再雇用を促した運輸省や、受け入れを決定したJR各社に猛反発。「加盟各単組におけるスト権の早期確立」と「JR総連へのスト指令権委譲」を提議するのだが、これをきっかけに、それまで「革マル派によるJR総連支配」に不満を募らせてきたJR東海やJR西日本の主力労組が次々とJR総連から脱退し、92年5月に新たにJR連合（日本鉄道労働組合連合会）を結成。「箱根の関」を境に、JR総連約7万人、JR連合約7万人と勢力を二分し、それは現在も続いている。

「この分裂劇の前後から、JR東海とJR西日本は、JR総連傘下労組との対決姿勢を鮮明にする。一方の松崎も、当時のJR西日本やJR東海の経営者に憎悪の念を募らせていくのです。なかでも松崎が目敵にしたのが、かつてはともに国鉄改革を先頭に立って推進し、JR発足後は労使協調路線の担い手として、友好関係を保っていたJR東海副社長（当時）の葛西氏でした」（JR関係者）

そしてJR東海の最大・主要労組『JR東海労組』がJR総連を脱退する直前の91年7月、松崎はJR総連の集会で葛西氏にこう宣戦布告する。「言うておく。君と戦う。堂々と戦う。そして、必ず勝つ」

この1ヶ月後から「何者か」によって、葛西氏の女性スキャンダルを書きたてた怪文書がJR各社、マスコミなどにバラ撒かれる。そして93年6月10日には、JR東海管内である岐阜県関ヶ原町のJR東海道新幹線上り線レールに、ワイヤーロープが巻かれるという列車妨害事件が発生。その2ヵ月後の8月29日には、滋賀県彦根市のJR東海道新幹線下り線レールにチェーンが巻かれる事件が起きた。またその直前の8月24日には、新幹線車内で置き針が発見されたのだが、置き針事件はその後5ヶ月にも及び、発見された針の数は約150本に達した。